様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：３１３０７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ０２０４４

研究課題名（和文）震災後の若年層女性のライフ・キャリア形成と知識伝達に関するジェンダー論的研究

研究課題名（英文）Gender studies of young women's life career formation and knowledge transmission after a disaster

研究代表者
天童　睦子（TENDO, Mutsuko）

宮城学院女子大学・一般教育部・教授

研究者番号：５０３６７７４４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、震災後における女性の人生キャリア意識の形成過程を、ジェンダー視点から分析し、その検討のもとに「ジェンダーと知識伝達」理論の構築可能性を探究することにある。震災で甚大な被害を受けた宮城県を主な調査地として、若年層女性を対象にフェミニスト・リサーチを応用した聞き取り調査を行い、女性のキャリア形成を人生の進路選択という幅広い視点から分析した。また、その視点と手法を幅広い年代の女性に広げ、東北から他地域へ広域避難した女性、とりわけ福島からの移動と帰還にも目配りをして調査を行った。これらの実証的検討を通して、日本のジェンダー構造とその変革にかかわる知識伝達の課題を見出すことに取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義
相次ぐ大規模災害のなかで「災害と女性」研究分野では、女性への暴力、被災地の女性支援、復興や都市計画における女性の視点などの知見が蓄積されてきた。「災害と教育」分野では子ども・生徒を対象に、青少年の心理的ストレスや学業、進路選択に関する調査分析がある。とはいえ女性・ジェンダー視点からの検討は十分とはいえない。
本研究はライフ・キャリアの視点をふまえて、女性たちが震災後の人生キャリアをどう創り、いかに葛藤を乗り越えているかをフェミニスト・リサーチの手法によって明らかにし、女性たちの声から浮かび上がる困難と希望を実証的に検討する。そしてエンパワーメントへとつなぐ「ジェンダーと知識伝達」理論を構築する。

研究成果の概要（英文）：This study aims to provide a gender perspective on young women’s life career formation and knowledge transmission after a natural disaster, based on the case of the Great East Japan Earthquake in 2011. Our research focused on women’s empowerment in Miyagi Prefecture, the area most affected by the tsunami. We conducted interview research with young girls who were teenagers at the disaster in 2011, while using the feminist action research method with a semi-structured questionnaire. This study revealed women’s life career awareness and career path selection were more or less affected by the consciousness of family values and the attachment to her native community after the disaster. This study also suggests some new ways of approaching studies of gendered knowledge transmission.

研究分野：ジェンダー

キーワード：女性学　災害　キャリア形成　エンパワーメント　知識伝達　広域避難　支援／被支援の相互作用　交流会活動

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９、ＣＫ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

（１）2011 年 3 月の東日本大震災以降、「災害と女性」研究分野では、女性への暴力、被災地の女性支援、復興や都市計画における女性視点の導入といった知見が蓄積されてきた。また「災害と子ども・教育」分野では、子ども・生徒を対象に、青少年の心理的ストレスや学業、進路選択に関する調査分析がなされている。とはいえ、ジェンダー視点からの検討や、10 代後半の女性への目配りは十分とはいえない。

（２）東日本大震災以後、数多の災害関連研究が生み出されてきたが、被災経験を持つ若年層女性の人生キャリア意識とその形成過程に焦点を当てた研究はこれまであまり見られない。本研究は震災後における若年層女性の人生キャリア意識の形成過程を、ジェンダー視点から分析し、その検討のもとに「ジェンダーと知識伝達」理論を探究するものである。

２．研究の目的

（１）本研究は、震災後における若年層女性の人生キャリア意識の形成過程を、ジェンダー視点から分析し、その検討のもとに「ジェンダーと知識伝達」理論を探究する。本研究は、震災で甚大な被害を受けた宮城県を主な調査地として、20 歳代前半の若年層女性（震災当時 10 歳代後半）を中心に、フェミニスト・リサーチの手法を応用した聞き取り調査を行う。そして女性のキャリア形成を人生の進路選択という幅広い視点から分析し実証的検討を通して、日本のジェンダー構造とその変革にかかわる知識伝達の課題を見出すものである。

（２）本研究では、上記の分析視点と手法を幅広い年代の女性に広げ、東北から他地域へ広域避難をした女性の移動と葛藤にも焦点を当てる。女性の人生キャリア研究において、女性の経験を、被災後の忍耐にとどめず、学問という分析力を通して理論化し、苦難からエンパワーメントへと紡ぐ「ジェンダーと知識伝達」理論の構築の可能性を拓くことが、本研究の主眼である。

３．研究の方法

（１）フェミニスト・リサーチの手法に基づく質的調査（フォーカス・グループ・インタビュー）を用いる。収集したインタビューデータは主に言説分析の手法により精査し、鍵概念を析出した。キャリア形成に重点を置いた調査では、研究主体が所属する女子大学の学生ボランティア組織、および同大学のキャリア研究会（学生主体の学習組織）に呼びかけて協力者を募った。質的調査の形式は、半構造化された質問紙（設問の骨子）を作成し、聞き取りを行い、学生同士の語り合いを含むフォーカス・グループ・インタビューの手法を生かして、協力者相互の水平的対話が生まれるように配慮した。また、女性市民グループの協力を得て、地域女性を対象にした聞き取り集のインタビューデータを対象に、言説分析を行った。

（２）上述の視点と手法をふまえて、調査対象を幅広い年代の女性に広げ、東北から他地域へ広域避難をした女性、とりわけ福島からの移動と帰還にも目配りをした調査を行った。広域避難女性が抱える重層的・複合的な困難を当事者からリサーチするのは容易ではないものの、事態の改善を共に考察し、行動する「伴走者」の存在が困難の打開と精神的な傷の回復に有効な場合がある。そこで、研究者自身が交流活動を通した「伴走者」として加わり、相互作用によって生じた変動の過程を観察、インタビューし、記録するアクション・リサーチの手法を実験的に用いた。この手法により災害事後の支援する側／支援される側の相互作用分析という研究手法を提起した。

４．研究成果

（１）若年層女性のライフ・キャリア分析：本研究では、2011 年の震災当時中高生（10 代後半）

であった20代前半の女性を対象に，フェミニスト・リサーチの手法に基づく質的調査（フォーカス・グループ・インタビュー）を実施し、ライフ・キャリア意識とその形成過程を検討した。主な対象は研究組織を置く女子大学の学生とその知人で14件のケースを収集した。半構造化された質問紙を作成し、調査目的を説明したうえで、協力者相互の水平的対話が生まれる配慮のもとに、グループインタビューを行った。この手法は、青年期という人生の探索期において、震災経験が自己の将来展望にいかなる影響を与えたかを、当事者のことばで語りつつ、自身の不安、葛藤、喪失、希望を想起する「回顧―展望的調査法」と呼びうるものである。ほぼすべてのケースで、被災地での経験が進路選択に与えた影響が読み取れた。また、調査地宮城を中心に、複数の被災地を視察し（仙台、亘理・山元、気仙沼等）、地域女性への聞き取りを行った。これらの実地調査では地域で活躍する女性市民への聞き取りを行い、被災時、被災後における地域女性の葛藤とエンパワーメントの事例が明らかとなった。

（２）被災後の女性の移動、市民活動と支援／被支援の相互作用分析：本研究では研究計画に則り、調査地を宮城、福島、北関東（埼玉）に拡大し、フェミニスト・リサーチの手法に基づく質的調査を継続した。第一に、福島から宮城に移動した若年層女性のライフ・キャリア形成調査、および宮城で活躍するNPOの代表、教員の女性への聞き取り調査を行った。聞き手に学生を含め、調査における相互作用によって生じる意識変化を確認した。第二に、福島県郡山市、富岡町を視察訪問し、同地で市民活動等に携わる女性へのインタビューを実施した。第三に、震災の影響により宮城や福島から東北以外の他地域に移動した女性と家族の現状を明らかにするため、埼玉県で女性支援を行う市民活動層の協力のもとに、支援する／される側の協働の実態を分析した。これらの聞き取り調査から、災害と女性の移動のかかわり、またその背後にある日本のジェンダー構造の分析の必要性が浮き彫りとなった。とりわけ福島の実態は環境、家族の分断、故郷の喪失といった重い問いを提示し続けている。

（３）災害と女性の言説分析と知識伝達の理論的枠組みの深化：これまで収集したデータの言説分析、およびジェンダーの再生産構造の検討を、天童編（2016）の言説分析の手法をふまえて行った。また女性学的視点から、学術と実践をつなぐ市民との協働的研究発信に取り組んだ。東北・宮城を中心に地域で活躍する市民女性グループのネットワークを活かして、定期的に研究会を開催し、女性のライフ・キャリア研究に不可欠な市民社会（Citizenship）とジェンダー研究の交叉を企図した。

　さらに、理論的枠組みの検討のため、国内外の文献にあたり、災害と女性・ジェンダー関連の文献リストを作成した（天童・浅野 研究成果報告書 2019）。また、研究成果の国際的発信の重要性を認識し、国内外の学会等で報告を行った。

（４）アクション・リサーチによる分析と成果：本研究ではアクション・リサーチを用いて、被災女性の移動と葛藤に焦点を当てた。具体的には埼玉県内の女性視点による交流会活動への参加、交流会の主催者に対するインタビュー及び広域避難関連広報紙等の検討によって把握した（瀬山 2012など）。埼玉県には、2011年の東日本大震災発災以降8年後（2019年）まで、継続的に活動している交流会は30余であり、その半数は、避難先地域の女性および避難女性によって設置・運営されている。それらの交流会活動の源流は、発災以前から取り組まれていた女性支援活動にあり、日常的な活動が災害時の避難者支援の活動につながったこと、活動内容は支援/被支援の関係を超えて参加者全員で交流の場を創造するという、全国社協が全国展開しているサロン活動と多くの点で共通性があることが判明した。埼玉県の広域避難者交流会に関しては、優れた先行研究があるが（西城戸・原田 2019）、そこでは母子・自主避難への言及はあるものの、女性視点の交流会に関する調査研究は不十分である。本研究はこの点を埋め合わ

せるものとして、貴重な成果である。

アクション・リサーチ（矢守 2010）を用いた意義として、第一に、調査対象者と研究者との間に協働の関係性がつくられ、率直な当事者の声を聞くことができ、研究内容に大きな効果をもたらしたこと、第二に、避難者が体験を表現する言葉を獲得するプロセスを観察し、交流会が持つ相互作用とエンパワーメントをより深く考察できたことが挙げられる。

（５）多世代交流の可能性について：交流会の多くは、中高年齢女性、子育て世代の女性、学生などの若年層女性など、多様な世代が参加しており、多世代交流の場になっている。学生が運営主体となり、多様な世代の参加者を得ている交流会もある(例：埼玉県越谷市の学生による交流会活動を調査)。分析の結果、このような交流会では、多世代による活発な知の伝達がみられ、若年層女性のライフ・キャリア形成と職業選択考察の契機となり、エンパワーメントにつながっていることが確認できた。

（６）体験知の伝達と共有について：時間の経過とともに直接的な被災地以外では震災の風化が著しい。しかし、交流会活動が長期にわたって継続されるなかで、交流会が避難者相互の交流の場のみならず、直接的な被災地以外に居住する女性たちが広域避難者の被災体験・避難体験を広域避難者と共有する場となっている。また、その「体験知の伝達と共有」は、両者の相互理解と信頼につながり、当初の支援者・被支援者の関係を超えて、交流会というコミュニティを協働で構築する営みとなっていることを検証できたことも本研究の成果である。

（７）総括と課題：第一に、本研究の学術的独自性は、「災害と女性」における総合的知識、すなわち専門知、日常知、学校知の統合的検討の深化にある。この知見は、日本から発信する「災害と女性」研究、キャリア形成とエンパワーメントの展開という国際的検討課題にも示唆を与えるものである。第二に、アクション・リサーチを用いた意義として、避難者が体験を表現する言葉を獲得するプロセスの可視化があるが、自らの被災・避難体験を整理し、外部へ向けて発信するには、当事者／支援者双方のエンパワーメントが不可欠である。当事者が信頼関係のある集団の中では語れるようになっても、さまざまな外在的な理由から外部へ向けての発信をためらう避難者もいる。災害時・災害後の困難に晒されやすい人々の尊厳と人権の保障を視野に、「人間の復興と女性のエンパワーメント」（浅野 2016）につながる知識・文化の伝達理論（天童 2019）とその実践の継続的検討が課題である。

引用文献

浅野富美枝 2016『「人間の復興」を担う女性たち』生活思想社.

瀬山紀子 2012「埼玉県男女共同参画推進センターの支援活動」日本女性学習財団『被災地支援者のエンパワーメントに関する調査研究』.

天童睦子編 2016『育児言説の社会学―家族・ジェンダー・再生産』世界思想社.

天童睦子 2019「教育をジェンダーで問い直す―フェミニズム知識理論の視点から」髙橋均編『想像力を拓く教育社会学』東洋館出版社.

天童睦子・浅野富美枝 2019『震災後の若年層女性のライフ・キャリア形成と知識伝達に関するジェンダー論的研究』（科研費・研究成果報告書）.

西城戸誠・原田峻 2019『避難と支援―埼玉県における広域避難者支援のローカルガバナンス』新泉社.

矢守克也 2010『アクション・リサーチ―実践する人間科学』新曜社.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計２件）

（1）天童睦子、松本晴子「女性・子どもの文化論序説―ジェンダーと地域芸能の視点から」宮

城学院女子大学附属キリスト教文化研究所『研究年報』、査読有、第 51 号、2018、71－93
（2）天童睦子、浅野富美枝「ジェンダー視点からみた広域避難と女性－東日本大震災における支援と女性たちの協働」第四回震災問題研究交流会『研究報告書』、震災問題研究ネットワーク，日本社会学会震災問題情報連絡会、査読有、2018、81－86
https://greatearthquakeresearchnet.jimdo.com/

〔学会発表〕（計 14 件）
（1）浅野富美枝「ジェンダー視点から見た広域避難者を対象としたサロン活動―8 年の変遷」第 5 回震災問題研究交流会、早稲田大学、2019
（2）Tendo Mutsuko, “Life Career Education and Women’s Empowerment: A Post-Disaster Perspective”, Spring Annual Conference of Comparative Education Society of Hong Kong（CESHK）, at The Education University of Hong Kong, 2019
（3）Tendo Mutsuko, “Japanese Women and Society: from a Post-Disaster Perspective”, presentation at Beyond 2018, at Gustafslunds Preschool, Helsingborg, Sweden, 2019.
（4）天童睦子「宮城発！ 元気が出る女性学『女性が語る東日本大震災』の分析から」、公開シンポジウム「女性と防災：次世代へつなぐ共同の実践へ」基調講演、エルパーク仙台、2019
（5）浅野富美枝「災害につよいまちづくりと女性のエンパワーメント－地域防災と女性視点」公開シンポジウム「女性と防災：次世代へつなぐ共同の実践へ」講演、エルパーク仙台、2019
（6）Tendo Mutsuko, Asano Fumie, “Disaster Diaspora and Women’s Empowerment in Japan”, Poster Presentation, World Social Science Forum(WSSF) in Fukuoka, Kyushu, 2018
（7）天童睦子「批判的フェミニストペダゴジーの展開と可能性」日本教育社会学会第 70 回大会、佛教大学、2018
（8）天童睦子「震災後の女性の経験とジェンダー問題の再構築」国際ジェンダー学会 2018 年度大会、聖心女子大学、2018
（9）天童睦子、浅野富美枝「ジェンダー視点からみた広域避難と女性－避難する側と避難を受け入れる側との協働」第４回震災問題研究交流会、早稲田大学、2018
（10）浅野富美枝「福島からの広域避難者と接して」非営利特定法人イコールネット仙台総会記念講演会、エルパーク仙台、2018
（11）浅野富美枝「東日本大震災における広域避難と女性」宮城学院女子大学キリスト教文化研究所主催シンポジウム「人間の復興と女性のエンパワーメントⅡ－女性と移動を中心に」、宮城学院女子大学礼拝堂、2017
（12）浅野富美枝「被災者が復興の主体となるための支援を」宮城学院女子大学キリスト教文化研究所主催シンポジウム「人間の復興と女性のエンパワーメント－女子大学から立ち上がる復興の新たなかたち」、宮城学院女子大学、2016
（13）天童睦子他、「育児言説をバーンステイン理論で読み解く：育児雑誌記事にみる教育化とジェンダー化」、日本教育社会学会第 68 回大会、名古屋大学、 2016
（14）天童睦子、「フェミニズムで読み解く知識伝達理論」、国際ジェンダー学会 2016 年大会、一橋大学、 2016

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：

種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
「女性と災害」研究　http://wac-lab.com/research.html
天童睦子・浅野富美枝 2019『震災後の若年層女性のライフ・キャリア形成と知識伝達に関するジェンダー論的研究』（平成 28 年度～30 年度か学研究費補助金　基盤研究（C）研究成果報告書）、全 67 頁、2019 年 3 月発行

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：上野　富美枝（浅野　富美枝）
ローマ字氏名：　AGENO(ASANO), Fumie
所属研究機関名：宮城学院女子大学
部局名：付置研究所
職名：研究員
研究者番号（8 桁）：50326732

(2)研究協力者
研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。